

鹿児島大学病院広報誌

だより

鹿児島大学医学部・歯学部附属病院広報委員会広報誌編集部

13号
2009.4

〈目次〉

【診療科・部門紹介】

- ▶▶ 眼科
- ▶▶ 歯周病科
- ▶▶ 乳腺・内分泌外科
- ▶▶ 光学医療診療部
- ▶▶ 治験管理部

—新連載—

鹿大病院を支える若い力

- **病院再開発** 結核感染病棟について
- 病院事務系職員研修を開催
- 院内暴力対策研修会を開催
- 錦江湾魚ごよみ

理念

鹿児島大学病院は、21世紀に輝くヒューマン・トータルケア病院の構築を目指し、医療人の育成及び医学・歯学の研究の充実と発展に貢献すると共に、常に患者さん本位の原点に立った、質の高い医療を提供します。

基本方針

1. 患者さんの権利を尊重し、安心して安全な納得のいく治療を心がけます。
2. 質の高い医療、先進的医療の充実を図り、地域の中核的医療機関として貢献します。
3. 教育・研修病院として、地域の医療機関との連携を図り、人間性豊かな使命感にあふれる医療人を育成します。
4. 診療を通じてわが国の医学・歯学の研究を推進し、医学・歯学及び医療の国際貢献を目指します。
5. 安全で効率の高い病院運営体制を確立します。

患者さんの権利と責務

〈患者さんの権利〉

1. 誰でも良質な医療を公平に受ける権利があります。
2. 人の尊厳は、医療行為のあらゆる場面において尊重されます。
3. 医学的な状態、診断、処置その他の個人情報保護されます。
4. 治療・検査の方法、薬の内容等について十分な情報と説明を受け、理解した後、同意・拒否を選択する権利があります。
5. 診療録等に記録された自己の診療内容について、本院の規則により、情報の提供を受ける権利があります。

〈患者さんの責務〉

1. 医療従事者が最善かつ適切な診療を行うために、自身の健康状態に関する情報をできるだけ正確に伝える責務があります。
2. すべての患者さんが適切な医療を受けられるようにするために、院内の医療の妨げとならないように協力する責務があります。

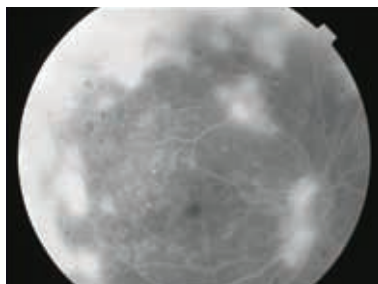
加齢黄斑変性、糖尿病網膜症に 分子標的治療を開始

加齢黄斑変性、糖尿病網膜症は、わが国の失明原因の上位を占める疾患です。現在まで、手術・レーザーなど様々な治療が行われてきましたが、視力低下を幾分遅らせることが精いっぱい、視力を回復させる効果はありませんでした。ところが、これら疾患の病態形成に、血管内皮増殖因子(VEGF)が重要な働きをしていることが解明され、VEGFを標的とした分子標的治療が欧米で開発されました。欧米での初期の治療成績では、視力低下を食い止めるに留まらず、視力を改善させるほどの著しい有効性があると報告されています。そこで、鹿児島大学病院眼科もいち早くこの治療を導入し、治療を開始しています。現在まで数百人に施行しましたが、大きな副作用もなく、良好な治療成績をおさめています(写真参照)。

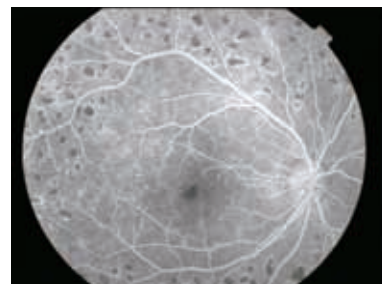
この分子標的治療以外にも様々な治療法を取り入れて、鹿児島でも世界最先端レベルの治療が受けられるようにしています。

〈初診受付〉月・水(8:30~11:00)

TEL 099-275-5865



糖尿病網膜症治療前の造影写真
 血管から造影剤が漏れており、
 出血も起こしている。



抗VEGF薬による治療後2日の造影写真
 血管からの造影剤の漏出は、著しく減少し、
 視力も大幅に改善した。

専門的な歯周病治療を行う

歯周病は

“重症になるまでほとんど痛みがない”

“再発しやすい”ことが特徴です。

歯周病は歯垢(プラークともいいます)によりおこる病気で、40歳以降で歯を失う原因の約4割を占めています。近年歯周病は、次のような全身の状態に影響することがわかってきました。

動脈硬化、狭心症・心筋梗塞、心内膜症、糖尿病、
 低体重児出産・早産、認知症、肺炎、肥満、
 骨粗しょう症、パージャータ病 など

歯周病科では、お口の状態を検査して、しっかり噛めるようになるように、**治療計画**をたてて専門的な歯周病治療を行っています。歯周病が進行している場合は、歯周組織を再生させるための外科的な治療(GTR法など)を行うこともあります。また、露出した歯根を外科処置で改善する治療法(写真右)も行っています。

40歳以降の方は、年に1回程度、専門機関での歯周病のチェックをおすすめします。

〈初診受付〉月~金(8:30~16:00)

TEL 099-275-6591

歯周病科

歯周病のセルフチェック

✓チェックして下さい!

- 歯ぐきが赤く腫れている。
- 歯みがきの時に出血する。
- ムズガユイ感じがする。
- 時々腫れて痛む。
- 歯が長く伸びたように見える。
- 歯がグラグラ動く感じがする。
- 歯と歯の間に食べ物がつまる。
- 歯ぐきを押さえるとウミが出る。
- 朝起きたときに口の中がネバついて変な味がする。
- 息がクサイといわれる。

一つでも該当項目がある方は、早めの受診をおすすめします。

根面被覆術



治療前



治療後

くびに痕の残らない甲状腺手術 乳腺・内分泌外科

乳腺・内分泌外科では、乳腺および甲状腺疾患に対する外科治療を中心に診療を行っています。乳腺はもとより甲状腺疾患も女性に多い病気ですので、甲状腺術後の頸部の傷痕は患者様にとって大きな問題です。当科では、病気をしっかり治す(根治性)と同時にあとの美しさ(整容性)を損なわない手術を心がけています。

甲状腺領域では近年、バセドウ病や甲状腺良性腫瘍に対して頸部を切らない鏡視下手術を行っています。この方法では、右鎖骨の下方のわずか3cmの皮膚切開で甲状腺を摘出可能です。くびに全く傷痕が残らないため、とても甲状腺を切除したとは思えない手術です。入院期間も短く術後3~5日で退院可能です。鹿児島大学病院は、この先進的な甲状腺鏡視下手術を行っている全国でも数少ない病院のひとつです。甲状腺疾患に関することはお気軽に乳腺・内分泌外科までご相談ください。

〈初診受付〉月・水(8:30~11:00)

TEL 099-275-5803

鹿児島大学病院および関連病院での
甲状腺鏡視下手術数

年度	鏡視下甲状腺切除
2007年	38例
2008年	32例



消化器内視鏡の進歩 ~カプセル内視鏡~

近年の消化器内視鏡の進歩には目をみはるものがあります。当院光学医療診療部でも最先端の内視鏡機器を導入し、消化管の早期診断や精密診断に力を入れています。今回はカプセル内視鏡をご紹介します。

カプセル内視鏡とは文字通り、11mm×26mm大の小さなカプセルの形をした内視鏡です。カプセル

を飲み込むだけで検査ができますので、患者さんは苦痛もなく、負担はほとんどありません。さらに内視鏡を飲みこんだ2時間後には水分を、4時間後には軽い食事も可能です。激しい運動や強い磁気にさらされることなどに注意が必要ですが、検査中は自由に行動でき仕事をすることも可能です。8時間で約8万枚の写真が記録できますので、今まで困難であった全小腸の観察が可能となりました。また、カプセル内視鏡検査で異常所見が確認された場合、関連病院である鹿児島医療センターでのダブルバルーン小腸内視鏡検査でさらなる精密検査や内視鏡治療を行っています。約6mと非常に長く、従来の胃カメラや大腸カメラでは困難であった小腸の検査や治療がストレスなく可能になったことは画期的なことです。

その他、当診療部には鼻から挿入し麻酔なしで内視鏡検査が可能な細径の経鼻内視鏡や粘膜の拡大観察が可能な内視鏡など、最先端の機器を導入しております。安心して検査を受けていただけるように、医師、スタッフとも「患者さんに優しい検査」をモットーに日々診療を行っています。

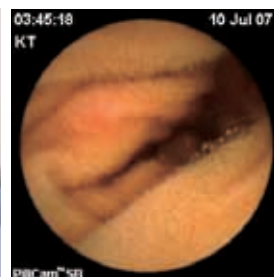
〈初診受付〉消化器内科外来 月・木(8:30~11:00) *なお、検査は原則予約制となっております。

TEL 099-275-5578(光学医療診療部)、099-275-5731(消化器内科外来)

光学医療診療部



カプセル内視鏡



実際の小腸写真

“治験”とは、新しい薬を開発するための 臨床試験のことです

治験管理部

“治験”という言葉をお聞きになったことがあるでしょうか？
薬を飲んだことがない方は多分いらっしやらないでしょう。
しかし、薬が創られる過程を知っている方は少ないのではないのでしょうか？

薬は病気を治したり症状を軽くしたりしますが、副作用もあります。そのため、新しい「薬」が使えるようになるためには、

- ①新しい「薬」の候補を選び(基礎研究)、
- ②動物での有効性、安全性等を調べ(非臨床試験)、
- ③人に対する有効性や安全性を検討し(臨床試験)、
- ④最終的にこれらの結果が審査され、安全で効果があると判断されたもののみが厚生労働省に医薬品としての販売を承認されます(承認審査)。

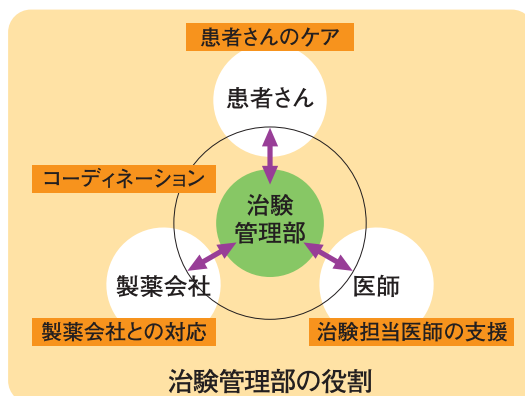
③の試験が“治験”です。治験には、大きく分けて

- a. 健康な方に使用していただいて安全性を検討する。
- b. その後、患者さんに使用していただいて、有効性と安全性を検討する。

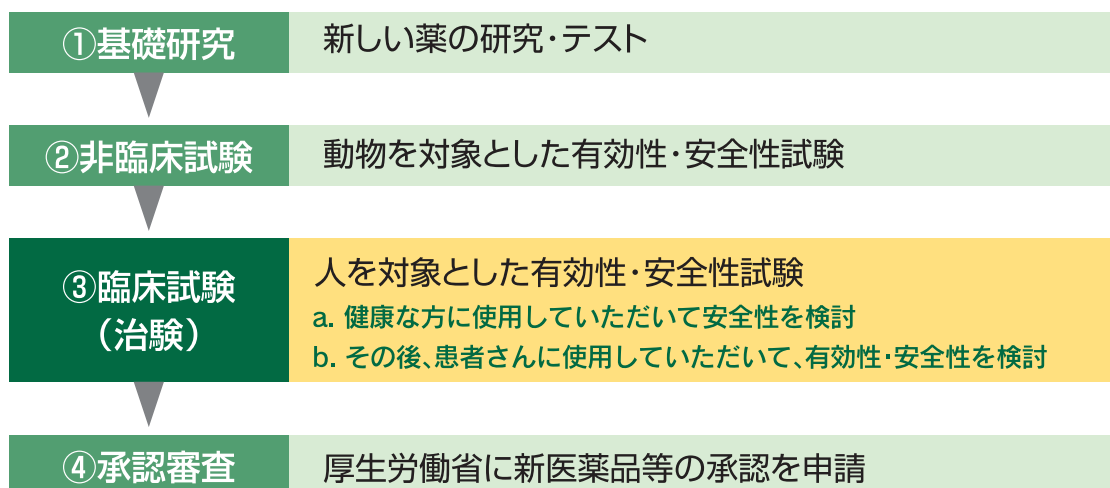
という、2つの段階があります。当院では、bの患者さんに参加していただく治験を行っています。治験は、参加していただく方の安全や権利を守るため、厚生労働省の定めた厳格なルールに従って行われます。

治験管理部では、薬剤師や看護師が、患者さんと医師の橋渡し、治験のスケジュール調整および製薬会社との対応などを行い、治験が安全かつ適切に行われるように活動しています。

現在、病気の治療に役立っている薬は、多くの患者さんの理解と協力により、使用されるようになりました。治験に参加してみたいと思われる方、また、ご質問のある方は、お気軽に治験管理部へご連絡ください。
(連絡先) TEL 099-275-5553(平日 8:30~17:15)



〈新しい薬が誕生するまで〉



鹿大病院を支える

若い力

—第1回—



臨床技術部 歯科衛生部門
歯科衛生士 西 さおり



患者さんに歯みがき指導を行う

歯科衛生士はお口の中をケアする専門家です

知り合いの歯科衛生士の方から「手に職をつけたほうがいいよ」と勧められて歯科衛生士の学校に2年通い、国家資格を取得しました。鹿大病院に勤めて5年、歯科衛生士として働きだして14年になります。

歯科衛生士は歯科医の補助役と思われることが多いのですが、お口の中をケアする専門家として、患者さんのお口を清潔に保つための支援を行っています。主な仕事は、歯みがき指導や歯のクリーニング、専用の機器を使うPMTC（機械的歯面清掃）、歯科医師の診療介助などです。歯みがき指導でお伝えしたことを患者さんが熱心に実行してくださったり、患者さんの症状が改善していくのを見るとうれしいですね。

他科の方々と協力するチーム医療に取り組みたい

近年、歯周病が糖尿病や心臓病などの全身疾患と深い関係にあることがわかってきました。お口の中を健康に保つのは、全身の健康にとって大切なことです。鹿大病院には医科があるため、全身疾患の入院患者さんの口腔ケアも行います。外来まで来ることができない患者さんに対しては、歯科医師、看護師、歯科衛生士で構成された口腔ケアチームが病室を訪問します。さまざまな健康状態の患者さんに対応するため、病気や薬、その副作用についても勉強したり、研修を受けたりもします。

今後は自身のスキルアップを続けることはもちろん、他科の方々と協力して全身の健康を守るチーム医療にも参加したいと考えています。また、歯みがきの「個人レッスン」を通して、患者さん一人ひとりのお口の状態に合わせた歯みがきの仕方、道具の選び方をお伝えしていくとともに、体の健康や心の健康につなげていきたいです。

TOPICS

病院

再開発

現在の建物は築後30年以上が経過しているため、病院内施設の充実、患者さんの療養環境改善を目的に、平成19年度から10年間で建物の増築・改修を行っています。期間中、ご不便をおかけするかもしれませんが、ご協力お願いします。

結核感染病棟について

新病棟建設のため、結核感染病棟を平成22年1月に取り壊します。平成25年度末に再整備されるまでの間、結核あるいは感染症患者の受け入れが困難となります。

取り壊し後は、埋蔵文化財調査を行い、その後平成23年～25年に新病棟を建設する予定です。ご理解とご協力よろしくをお願いします。

結核感染病棟の変遷

- 昭和49年 結核伝染病棟 35床(結核30床、伝染5床)
- 平成12年 結核感染病棟 35床(結核28床、その他7床)
- 平成16年 結核感染病棟 20床(結核13床、一般7床)
- 現在に至る



現在の結核感染病棟

新しい出会い

桜島北部の海岸から、海に入ります。澄み切った海中、海底の砂に、春の日差しが跳躍します。昨年生まれたクロサギ(アメイオ)の幼魚たちが、銀鱗を輝かせて浅瀬いっぱい群れています。まだ水温は冷たいですが、海の中にも春が訪れたのです。

そんな浅瀬の日差しに包まれて、私は、浅瀬の向こうに広がる深みを目指します。浅瀬を過ぎると、周りほとんどに殺風景な風景へと変わります。桜島の火山灰が堆積した灰色の泥の斜面が延々と続いているのです。時折小さなハゼが砂の中から飛び出すだけで、生き物の気配はあまり感じられません。まるで海底の砂漠です。

水深が深くなるとともに暗くなる海中を、水深35mまで降りてきました。いよいよ目指す魚のいる水深です。私は、海底すれすれに視線を落とし、泥を巻き上げないように、じりじりと海底を進みます。間もなく、一本の空き缶が眼にとまりました。空き缶の飲み口からは小さなハゼが顔を出しています。この空き缶は、友人が目印に置いてくれたものです。私は、空き缶の傍らから、じっと、先の海底に眼を凝らします。

いました。体長5cmほどの青い影、ハゴロモハゼ属の一種です。まだ名前のない、新種のハゼです。私はそれから40分もかけて彼ににじり寄りしました。ファインダーの中に浮かび上がるその姿は、青く光り輝いて見えました。

錦江湾の暗い水底に、まだ人知れず暮らす、小さな美しい命に出会いました。



青く輝く、ハゴロモハゼ属の一種のオス

TOPICS

病院事務系職員研修を開催

鹿児島大学病院では、このほど病院勤務が初めてとなる職員を対象に病院事務系職員研修を行いました。研修には多様なプログラムが組み、病院の医療情報管理システムの講義や、外来初診手続き、車いす搬送などの実体験、またAEDを使用した一次救命処置、救急蘇生法の訓練などが実施され、最後に心肺停止の職員を発見したとの想定で本番さながらのシミュレーションが行われました。本院は、今回の研修参加者が病院の実状を知り、病院職員の果たす役割や緊急時の職員間のチームプレーの大切さを学ぶ有意義な経験となり、患者さんへのサービス向上へとつながることを期待しています。



車いす搬送の体験

院内暴力対策研修会を開催

鹿児島大学病院では、このほど全職員を対象に、同病院に勤務する警察官OBの特任専門員を講師とし、院内暴力対策研修会を開催しました。近年増加してきた病院内の医療職員への暴力行為に対しどう対処するべきか、患者さんの安全をどのようにして確保するかなどについて、他医療機関の実情の紹介や、院内暴力が発生した場合の具体的な現場対応等について学びました。研修会の最後に、医師や看護師に扮した職員による離脱技や凶器所持者に対する刺股(さすまた)を利用した対応実技が次々と披露されました。



職員による対応実技の実演

広報誌編集部会からのお知らせ

鹿児島大学病院の診療内容、病気について的一般知識など知りたいことがありましたら、お知らせください。
また、「桜ヶ丘だより」への皆様方からのご意見・ご感想をお待ちしております。

鹿児島大学病院広報誌 桜ヶ丘だより〈13号〉

2009(平成21)年4月発行
発行／鹿児島大学医学部・歯学部附属病院広報委員会広報誌編集部会
〒890-8520 鹿児島市桜ヶ丘8丁目35番1号 TEL 099-275-6692
【鹿児島大学病院ホームページアドレス】
<http://com4.kufm.kagoshima-u.ac.jp/>